

令和3年（食と観光対策特別委員会）開催状況

開催年月日 令和3年8月4日（水）
 発言者 日本共産党 真下 紀子 委員
 報告者 観光振興監、観光局長、誘客担当局長、
 観光振興課長、観光事業担当課長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 観光振興とコロナ対策について （真下委員） 1日の感染者が、7月29日に1万人を超えて以降、1週間平均で1万2千人を超えています。最高は1万4千人を超えるという状況で、東京・首都圏等の急拡大が止まりません。北海道は、5月の時点で重点措置を要請しようとしたところ、専門家会議の指摘を受けて、5月16日から6月20日まで1か月の緊急事態宣言に至ったわけですが、その時点と比較してみますと、5月5日の7日間平均が208人だったんですね。8月1日がそれを超える224人になっています。緊急事態宣言レベルの感染が今拡大している、さらにデルタ株による感染の急拡大ということですから、これはこれまでにない危機感を持って対応しなければならない事態だということなんですね。道は、独自対策をとってきたんですけども、今の状況ではピークアウトも見通せない、極めて深刻な状況となっています。</p> <p>（一）感染症に強い北海道観光のモデルについて （真下委員） 道は感染対策を徹底した新しい旅のスタイルを構築するために、4月から5月15日まで、新しい旅のスタイル事業に取り組んできました。宿泊施設の感染防止対策についてのアンケートでは、この対策について「満足」、「やや満足」の割合が97パーセントとなっていて、非常に期待されたわけです。しかし、事業中止に追い込まれました。道の考えている感染症に強い北海道観光のモデルとは、いったいどのようなものかと疑問を持たざるをえないので、この点について伺いたいと思います。また、宿泊事業者感染防止対策等支援事業費を道は計上しておりまして、現在執行しておりますが、それを徹底すれば感染を防げると考えているのかどうか、併せてお聞きしたいと思います。</p> <p>（二）観光シーズンの感染防止対策について （真下委員） そうすると、宿泊施設などでは感染対策を講じることによって、感染の拡散もされていないし、準備はできているんだということですが、全道的な、全国的な感染の拡大が収まらない限りは、この事業を開始できないし、これだけ制約をされた中で果たして、どれだけの思い出をつくることができるんだろうという気もするわけですが、準備は一応できているという認識なんだというふうに思いますが、しかしながら今の感染状況の中で、全国知事会が国への要請の中で、旅行も帰省も自粛を求めているわけです。ところが、本道では観光シーズンを迎えておりまして、もう既に来道者が増加しております。行列も</p>	<p>（観光事業担当課長） 感染症に強い北海道観光のモデルについてでございますが、「新しい旅のスタイル」は、同居者または個人による道民の圏域内旅行に限定し、新北海道スタイルの実践、黙食・黙浴の遵守に加えまして、事業者に対する誓約書及び利用者に対する同意書の提出、利用者アンケート調査や抜き打ち検査の実施など、事業者の方々を利用者の皆様双方のご協力のもと、感染防止対策を徹底した取組の普及・定着を図るものでございます。</p> <p>各施設では、手指消毒剤の十分な設置や検温の実施、黙食等と呼びかけるポスターの掲示のほか、食堂の混雑状況を客室で確認できるシステムの導入など、それぞれ工夫しながら感染防止対策を適切に行うとともに、利用者に対する注意喚起にも取り組んでおられます。</p> <p>また、宿泊事業者に対する支援事業につきましては、令和2年5月に、業界団体が策定した全国統一のガイドラインに基づき、各宿泊施設が行う感染防止対策に必要な消耗品、機器、備品の導入やテレワーク環境整備などを支援し、感染防止対策の強化を進めるものでございます。</p> <p>道といたしましては、業界団体のガイドラインや国が示している「新しい旅のエチケット」の遵守に加えまして、事業者の方々や利用者の皆様双方のご協力により、感染防止対策を徹底した「新しい旅のスタイル」の普及・定着を推し進めることなどを通じまして、感染症に強い北海道観光を目指してまいります。</p> <p>（観光振興課長） 観光客への感染防止対策についてございますが、今回のまん延防止等重点措置では、札幌市民及び札幌市に滞在している皆様に対し、日中を含めた不要不急の外出や移動を控えていただくことや、その他の市町村の皆様に対しましても感染リスクを回避できない場合、不要不急の外出や移動を控えることを要請しているところでございます。</p> <p>道では、これまで事業者が行う感染防止のための衛生関連機器の導入支援や、業界団体による感染拡大防止のためのガイドライン策定支援をはじめ、感染防止対策を徹底した「新しい旅のスタイル」事業を実施し、本道を訪れる観光客が安全・安心に旅行ができる環境を整えてきたものと認識しております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>できております。</p> <p>2日からまん延防止等重点措置が本道で実施され、札幌市が禁酒となったわけでありますけれども、飲酒が可能な札幌市以外への観光客が移動することが想定されます。観光客に対する全道規模の感染拡大防止対策が必要ではないかと考えるのですけれども、この点についてはどう取り組むのかお聞きします。</p> <p>(真下委員)</p> <p>観光振興機構の昨年10月から今年2月に実施した、北海道来訪者満足度調査の下で分析されたものでも観光の仕方が変わってきていると、人数も少なくなつて、まわりにも出かけられると。</p> <p>それで、道が感染リスクを回避できない場合、不要不急の外出や移動を控えることを要請するというのですけれども、観光施設の方でも十分感染対策がとれているということをおまじり言うと、感染リスクが回避できるのではないかとということを出て行くのではないかと、移動を誘発してしまう可能性というのはないかと、ちょっと矛盾したようなところがあると思うのです。</p> <p>とにかく今は、移動の自粛を行って、全体としての感染を抑えるということであれば、そのことをメインにしていく必要があるのではないかと、安全・安心を強調するがあまり、今でも出かける方を増やしてはならないのではないかと思いますので、このメッセージの出し方というのは、少し気を付けないとならないと思います。</p> <p>ですから、やはり全道規模で感染拡大を防ぐためにどうするのかという意識付けと一緒にしていく必要があると考えます。</p> <p>(三) 来道観光客の検査実施等について (真下委員)</p> <p>感染が北海道で一時収まってきていた時期もあったのですけれども、やっぱり東京で首都圏や関西圏で拡がるのとそれが地方で拡がってくるという傾向は否めないうわけで、沖縄県では緊急事態宣言のままなんですけれども、那覇空港で、約30分で検査結果が判明する抗原検査を開始したということです。国のモデル事業で無料で行える事業があつて、約28万人の搭乗者のうち11,681人が利用して、約4%が利用したと。14人が陽性疑いだという結果も出てますけど、そうするとかかなりな、全員が検査をすれば、相当な陽性者が出るんじゃないかということが懸念されるわけです。</p> <p>そうした中で、沖縄県が、県独自で検査費用はかかるんですけども検査を始めた。で、沖縄県に来るときは検査が必要なんだということを非常に強くアピールしているんですね。で、検査費用は、抗原検査の場合は2,000円かかり、PCR検査は5,000円で県内在住者は3,000円だということで、希望する方が受けられることになっているそうです。離島プロジェクトもあるようです。9月まで行うということなんですけども、担当が、県の文化観光スポーツ部観光振興課となっております。観光分野が率先して、この来県してくる方たちに対して検査を推奨している事業だというふうに私は受け止めております。</p> <p>それで、本道も安全な観光とコロナ終息に向けた対策として、こういったことを実施することが非常に有効ではないかと考えるわけです。移動の自粛を求めただけでなくて、検査をして陽性者を把握することなしには、感染を止めることはできませんので、こうした対応や観光地、宿泊施設でも検査によって感染者の把握を行うことができると、そうした道の事業を実施していく必要があるのではないかと考えるんですけど、いかがでしょうか。</p>	<p>道といたしましては、まずは徹底して感染症を押さえ込み、感染防止対策の強化に向けた取組支援などを進め、感染防止と社会経済活動の影響の最小化に向け取り組んでまいります。</p> <p>(誘客担当局長)</p> <p>来道観光客の検査実施等についてであります。道では、本道を訪れる方々に対して、これまでも、空港、駅、フェリーターミナルなどでのポスター掲示や放送による注意喚起に加え、特に往來の多い空港等では、体温測定を実施してきたところでございます。</p> <p>また、国では6月3日から30日にかけて、新千歳空港において、モニタリング検査としてPCR検査を実施してきたところであり、道としても、これに協力してまいりました。</p> <p>現在、国において、8月31日までの間、羽田空港等全国6か所の空港から北海道へ向かう利用者のうち、希望者に対して、無料のPCR検査や抗原定量検査を実施しておりまして、道としては、引き続き、利用者への周知を図ってまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(真下委員) それでは、伝わらないと思うんですね。知事が本当に危機的な状況だと言って、外出の自粛やそれから来道を自粛して欲しいということを言っているわけですから、それに対応したことをやらないと、私は今までやって来たとおっしゃってますけど、今までやって来たことでは効果がないから感染が広がっているわけですよね、それ以上のことをやらなかったら感染を抑えられないわけです。その中で有効なのが検査なわけですから、その検査をどうやって実施をして頂くかということが大事なんだと思うんです。</p> <p>それで、先ほど木葉委員の質疑を聞いていまして、なるほどなと思ったんですけど、この無料のモニタリング検査、モデル検査を受けたものであっても、陽性の疑いがある場合は、搭乗の自粛が求められます。そうした場合に、それが嫌だから検査を受けない人がたくさんいると思うんですね。でも、そうした方も気持ちよく検査を受けられるように、搭乗の自粛を求められたときに、北海道としてインセンティブになるような、なんて言うんですか、例えば1泊旅行をプレゼントするとか、そういう場合は次を無料にするとか、なんか首かしげてるけど、なんて言うんですか、陽性だった人達が、行けないという思い出だけが残るんじゃないかと、やっぱりその時に協力して良かったと思えるような、何か対策が必要じゃないかと私は思うんですね。それは観光の、観光としての北海道の対策として考えられるんじゃないかと思うんですけど、今言ったことなんで、振興監首かしげているのでね、よく議論しなくてはいけないと思うんですけど、でも、そういうことしないと検査は受けられないと思いますし検査を受けていただく気がないのかどうか、疑われるかと思いますので、この点については少し議論していきたいと思います。</p> <p>(四) 今後の取組について (真下委員) 今後の取組ですけれども、今回の重点措置によって2年連続観光自粛が求められる本道の観光業に直接支援がありません。先ほどの感染防止等支援事業はあるのですけれども、それ以外の直接支援が無いままなのですけれども、新しい旅のスタイル事業再開まで、どう取り組んでいこうとしているのかお伺いします。</p> <p>(真下委員) 食と観光の委員会に入って、観光の問題で質問するのは久しいのですけれども、意見交換をしていく中で感じるのですけれども、例えば、今の道内旅行再発見し、更なる道内旅行を促進すると、そういう情報発信をしていくということをおっしゃるので、道民が今どういう観光を望んでいるのか、そういうことは把握しているのでしょうか、私は、皆さんがこういうのが良いと思っているのと、道民一人一人がコロナの自粛生活の中で、こういう観光を試してみたい、こういうところに行ってみたい、そういうことを考えているのとギャップがあるのではないかと思うのです。</p> <p>だから、今後の取組、今、自粛期間がある中で道民からどんな観光を試してみたいですか、道内のどういうところの魅力を感じたいですかとか、そういう旅行企画というほどではないにしても、道民が求めているニーズの把握ということを少し把握すること</p>	<p>(観光局長) 今後における足下の取組についてであります。コロナの影響で厳しい状況にある観光産業の皆様を支援するため、道では、これまで、国の「GoToトラベル」に先駆けまして「どうみん割」を実施するほか、貸切バスや宿泊施設の感染リスクの低減を図る教育旅行支援など他地域に先んじて取組を進めてきたところでございます。</p> <p>今年度においては、「新しい旅のスタイル」のほか、足下では宿泊事業者が行う過年度分を含めた感染防止対策の強化に向けた取組への支援などを通じ、社会経済活動への影響の最小化を図る一方、道民が地元を楽しめる観光地づくりを進めるとともに、道内旅行を再発見し、更なる道内旅行を促進するための情報発信などに取り組んでまいりたいと思っております。</p> <p>(観光振興監) 道民の意向把握ですけれども、これは宿泊事業者の皆様、それから旅行代理店の皆様、こういったところで我々日々かなり密な頻度で意見交換をしております。</p> <p>道民の皆様の意向把握、コロナ禍においてどういう旅行がしたいのか、アフターコロナにおいてどのような旅行がしたいのか、旅行の形態が変わってきている。こういうのは、我々常に把握をしております。</p> <p>そういったことを踏まえて、観光施策を今立案しているところでございますので、それはコロナ後にどういったものやっていくのかということ、今内部で議論しているところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>ぐらいはした方が良いのではないかと、それでポストコロナの後の企画にそれを反映していくと、いうようなことを今準備としてすれば、道民の方も我慢している間に希望を持てると、次のステップに行くときの希望が持てるのではないかと思うのですけれども、そういう情報発信だけではなくて、謙虚に希望を聞く、そういうことをやる必要があるのではないかと思いますけれども、これは伺っておきたいと思います。</p> <p>(真下委員)</p> <p>そうした、道民の意向がどういうことになっているのかということをもう少し発信していただくと、他の方にも相乗効果というか、そういうのも広がっていくと思いますので、発信していただきながら、更に、コロナ後を見据えた観光の振興が、爆発的には進まないと思いますけれども、慎重に進めていけるようなことが答弁されたので、今日はこれで終わります。</p>	